

## タイワンガザミの種苗生産と放流（概要）

島袋新功\*

この調査研究の詳細については、「昭和58年度栽培漁業技術開発事業報告書」（沖水試料No.76）に報告したので、ここでは概要のみを述べる。

1. ワムシ、アルテミア、冷凍アサリを投与してタイワンガザミの種苗生産を行なった。その結果は表1のとおりであった。
2. 生産した稚ガニは、勝連地先で囲網による中間育成を約10日間行なった後放流した。その経過は表2に示した。
3. 中間育成中の稚ガニ歩留りについては、すくい網による稚ガニの採取率が低くかつ不安定で調査方法に問題が残ったが、歩留りはかなり低いようであった。また、放流尾数が少なかったために、放流後の追跡調査も1週間で中止せざるを得なかった。

表-1 タイワンガザミの種苗生産結果

水槽区	飼育水量 ( $m^3$ )	開 始 時		取 り 揚 げ 時		尾 数 (千尾)	生産密度 (千尾/ $m^3$ )	飼育日数	生残率 (%)	
		月日	尾 数 (千尾)	密 度 (尾/ $\ell$ )	月日					令期
1	18→20	5.11	490	24.5	5.28	C <sub>1</sub>	37.5	1.9	17	7.6
2	18→20	5.14	476	23.8	5.31	C <sub>2</sub>	69.7	3.5	17	14.6

表-2 タイワンガザミの海浜囲網中間育成経過

月日	放養数(千尾)	調査点数	生残数	生残率(%)	令期	備 考
5.28	37.5	11	(7,700)	(20.5)	C <sub>1</sub>	( )内は放養直後の採捕数と率
29		10	2,720	7.3	C <sub>1~2</sub>	
31		10	3,200	8.5	C <sub>2</sub>	
31	69.7	10	(30,400)	(37.0)	C <sub>2</sub>	( )内は追加放養直後の採捕数と率
6.1	(計107.2)	10	21,520	18.6	C <sub>2~3</sub>	
9		15	4,260	4.0	C <sub>3~4</sub>	囲網開放

\* 現在、栽培漁業センター